

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第96回

---

<タイトル>

「所長の“品格”」

<本文>

物流業界において、各ポジションの担当者は、それぞれの役割と責任に加えて「品格」もまた必要ではないだろうか。今回は所長の「品格」について述べていきたいと思う。

所長といっても、部下の数は五?百名規模まで様々であろう。しかし、部下の数に関係なく、その営業所や事業所の「長」であることは間違いない。部下にとってのモデルとなるような言動と仕事ぶりで、「この人の下で働いて良かった」、「不満はない」といった現場からの意見が出れば申し分ない。しかし現状、なかなかそういった人物が「長」として君臨していることは少ない。

私が多くの現場を見て優秀であると思える「長」には共通して以下のような品格がある。朝の出社は誰よりも早く一番にタイムカードを押している、朝礼、昼礼、終礼など、日々の当たり前と言える確認事項を怠らない、常に気配り意識を持ち、混乱しているスタッフなど誰も気が付かない事柄にいち早く行動を起こす、最低必要限の発言と指示を出し、あとは聞く側に回ることを意識し、常に誰かの相談に応じている、重大事故やトラブルの発生時には率先して動き、決してその責務から逃げない、部下が落ち込んでいる時、気落ちしている時、「一言かける」ことを忘れない、あいさつや5Sは自ら進んで実践している、誉めるということを知っており、ここ一番のときにそれを実践できる、「管理」に感情を入れない、現場には頻繁に出向き、事務所で業務と50:50ぐらいのバランスを保っているなどが挙げられる。

所長たるものモラルは当然のこと、「品格」という要素も備えていないと部下や荷主はついてこないし、一定の業績を上げることも困難である。

皆さんも「品格」という視点で一度所長を考課されてはいかがですか。(トメ)